

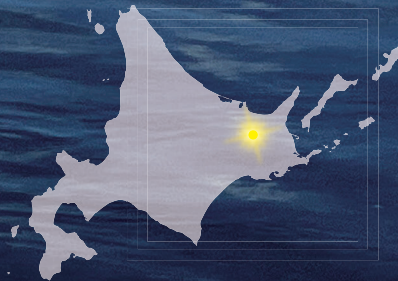
後 期  
2026-2029

# 弟子屈町 観光振興計画

弟子屈町らしい持続可能な観光の実現に向けて



2026年4月  
弟子屈町





# 目次

はじめに	02
<ul style="list-style-type: none"> <li>● ビジョン</li> <li>● ごあいさつ</li> <li>● 観光振興計画策定の意義</li> </ul>	
<b>第1章</b> 観光振興計画について	06
<b>第2章</b> 弟子屈の観光が抱える課題の全体像	12
<b>第3章</b> 課題分析と解決に向けたアクション	17
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 世界基準の観光ガイドラインの導入 18</li> <li>● A：持続可能なマネジメント 20</li> <li>● B：社会経済の持続可能性 30</li> <li>● C：文化の持続可能性 36</li> <li>● D：環境の持続可能性 40</li> </ul>	
<b>第4章</b> アクションプランを後押しする 組織と取り組み・財源	45
<b>第5章</b> 成果目標の設定	52
<b>第6章</b> 観光振興計画策定の経過	54
<b>巻末資料</b>	
アイデア集	57
用語集	58

*Slogan*

行きたいまちへ、  
生きたいまちへ。

*Statement*

美しい景色を目で見るだけでは、弟子屈はもったいない。

山を歩き、川を下り、湯に癒され、食をたのしむ。

火山が育んできたこのまちの過去に耳を傾け、

共に目指すべき未来を語り合いたい。

弟子屈の魅力は、ふだんの暮らしの中にあふれている。

だから暮らすように旅をすれば、きっとこのまちをめぐる価値に気づく。

だからもっともっと、伝えていこう。

このまちの歴史を、あなたが感じる魅力を、こうなりたいという未来を。

一度きりではなく、何度でも訪ねたくなる場所になる。

その先で弟子屈は、ここに生きてみたいというまちになっていきたい。

Credo

- 1 自然と人の共生をバランスよくつづけよう
- 2 再発見した弟子屈の魅力を  
訪れた人々につたえよう
- 3 守ることと遺すことで  
弟子屈の価値を次世代につなごう
- 4 挑むことと生み出すことで  
新しい弟子屈の価値をつくろう

まずは“行きたい”、  
そして“生きたい”まちになるために。

つづける  
つたえる  
つなぐ  
つくる

【Slogan：スローガン】弟子屈町のめざす旅行地の姿を簡潔に言い表した語句。ビジョン。  
【Statement：ステートメント】スローガンを補足する声明書。  
【Credo：クレド】スローガンを元に、実際に行動するときの価値基準や行動指針のこと。

## — ゴアいさつ —

広大な北海道の東部、ひがし北海道の中核に位置するわが弟子屈町。神秘の青を湛える摩周湖、噴煙立ち上る硫黄山、そして日本最大のカルデラ湖である屈斜路湖。これらわが町の風景を見ていると、いつも心からの安らぎと、この地に生きる誇りが胸に込み上げてきます。

町の面積のおよそ3分の2が阿寒摩周国立公園に含まれる本町において、「100年先も続く持続可能な町」をめざすことは、単なるスローガンではありません。それは、先人たちが厳しくも豊かな自然と対峙し、築き上げ、守り抜いてきた壮大な自然環境を、損なうことなく未来へつなぐという、現代に生きる私たちの責務です。

2020年代初頭、世界を襲ったパンデミックは、私たちの社会に大きな試練を与えました。しかし、それを乗り越えた2026年の今、弟子屈町には再び活気が戻りつつあります。特に、長年の懸案であった「川湯温泉街の再整備事業」や「中心市街地再構築事業」の進展は、本町が新たな時代へと歩み出した確かな証です。街並みが生まれ変わり、賑わいが戻りつつある今こそ、「真に豊かな観光地とは何か」を考えなければなりません。訪れる人の数だけを追わず、磨き上げた地域資源の価値をさらに高め、その利益が確実に地域経済に還元される仕組みが必要です。

この高度なかじ取りを担うのが、観光地域づくり法人（DMO）として2022年に登録された「一般社団法人 摩周湖観光協会」です。行政だけではカバーしきれない機動力を持ち、民間事業者や町民の皆さまと密接に連携する同協会は、まさに「観光地経営の司令塔」です。客観的なデータに基づいた戦略を立案し、多様な関係者を束ねて進むべき方向を示す「観光地域づくりのかじ取り役」として、本計画を強力に推進していきます。

観光の語源は「国の光を観る」という中国の古典にあると言われています。光を当てるべき町の宝は、絶景だけではありません。湯量豊富な温泉、大地が育む食、アイヌ文化を含む歴史、そして何より、この町で暮らす人々の営みそのものです。観光は、旅行者や事業者だけのものではありません。町民の皆さまが日々の暮らしに豊かさを感じ、この町が好きだと思えること。その「地域の誇り」こそが、訪れる人々への極上のおもてなしとなります。「変えていくこと（イノベーション）」と「変えないこと（伝統と自然）」を見定め、町民と来訪者が互いに尊重し合える関係性を築く。それこそが、私たちが目指す持続可能な観光地域づくりの姿です。

本計画の策定にあたり、熱意を持って議論を重ねていただいた町民、事業者の皆さま、そして貴重なご提言をくださった全ての皆さまに、深く感謝を申し上げます。

計画策定が目的ではありません。実行して初めて命が吹き込まれます。変化の激しい時代ではありますが、柔軟に軌道修正を行いながらこの計画を着実に進めます。「世界に誇れる弟子屈」の未来を、共に創り上げていきましょう。

弟子屈町長 徳永哲雄

# 豊かな自然や人々の暮らしを守り続ける 「弟子屈町らしい持続可能な観光」

観光は「総合産業」と言われています。経済・社会基盤が脆弱化する社会で雇用を生み出し、経済社会の発展の重要な役割を担う産業です。弟子屈町においても、宿泊業や飲食業はもちろんのこと、農業、水道やガス、運送業、交通事業者などあらゆる産業への波及効果が大きく、すべての産業のけん引役となることが期待されています。また、観光業は機械化のできない産業であることから、雇用促進の面でも経済効果が高い産業であると言えます。

全国有数の豊かな自然を擁する弟子屈町では、一過性のマストツーリズムで地域の自然や暮らしに負荷をかけることで経済を活性化させていくのではなく、中長期の視点で「持続可能な観光地域づくり」を行っていくことが求められています。町が直面するさまざまな社会課題を解決し、地域の魅力である豊かな自然を守りながら成長していくためには、町民と行政が同じ目線で協働していくことが大切です。

## 目的

### 「弟子屈町らしい持続可能な観光」の指針の共有と 実現に向けた取り組みを促進

- 本計画の目的は、豊かな自然や人々の暮らしなど、町の魅力を守り続けるための一つ的手段として観光産業が重要である現状や、弟子屈町らしい「持続可能な観光のあり方」の指針を共有することです。
- 町民と行政が共通認識を持つことで、実現に向けさまざまな取り組みを進めていきます。

## ターゲット

### 地元の関係事業者に加えて、町民すべての心に残り 訪れる人の共感を生み出す観光振興計画

- 本計画は、地元観光事業者のみならず全ての町民、そして弟子屈町を訪れる旅行者に向けて策定されたものです。

## 大切なこと

### 「一人ひとりの日々の取り組み」が弟子屈町の未来を創り出す

- 中長期視点で「持続可能な観光」を実現するためには、豊かな自然を守るだけでなく、環境・社会経済・文化がともにバランスよく発展していくことが重要です。それは一人ひとりの日々の小さな取り組みから始まるものです。
- 行政だけでなく町民のアイデアや行動を掛け合わせ、日々の取り組みを積み重ねることで、未来を共に創っていくことができると考えています。

#### 【参考①】

#### なぜ観光が重要なのか



#### 【参考②】

#### 持続可能な観光とは

UN Tourism（国連世界観光機構）によると、持続可能な観光とは、  
「訪問客、業界、環境及び訪問客を受け入れる  
コミュニティのニーズに対応しつつ、現在及び  
将来の経済、社会文化、環境への影響を充分  
に考慮する観光」と定義づけられています。